

2016年7月8日、第8期人民権力全国議会第7回通常議会におけるラウル・カストロ国家評議会議長の閉会演説の要旨 2016年7月9日付「グランマ」紙より。

ラウル議長が、7月8日の国会演説で、キューバが経済困難に直面していることを述べた部分の概要です。

2015年の12月、伝統的な輸出産品の価格の下落、相互に利益ある国々、特に経済戦争を押し付けられているベネズエラ・ボリーバル共和国との協力の影響の結果からくる外貨状況の困難を説明した。



上半期の経済成長は1%で、計画の半分である。理由は、石油価格の下落による主要な貿易相手国の困難とともに、輸出外貨収入の未達成により、外貨がひっ迫したことによる。さらにベネズエラとの協定原油供給に一定の減少が見られることがある。

その中でわれわれは、リスクした支払い分の約束を維持してきた。通常取引の支払いで、輸出者への支払いが遅れたことを認めなければならない。理解と信頼を示していただいている方々に感謝するとともに、支払いの遅れを取り戻すことが政府の強い意志である。キューバ経済への国際的信頼を引き続き必ずや再確立する。

3月15日にオバマ大統領により、キューバとの貿易でのドル使用の禁止が解除されると通知されて3カ月経過したが、依然として維持されている。

こうした状況において閣僚評議会は、経済活動を維持し、国民への影響を最小限にするために、一連の措置を採択した。

市民の間に元気を失わせ、不安をまき散らす目的で、わが国経済が急激に混乱し90年代の非常時に戻るといった憶測が現れ始めている。現在よりもっと困難な影響が現れることを否定はしないが、われわれは、それに対する準備ができています。

困難と脅威に直面して、思い付きや、敗北主義に陥ることがあってはならない。党と政府の協力を深め、沈着に、合理的に、政治的的感受性をもって、革命の現在と未来を楽観し、確信をもって対峙し、勝利を収めよう。

あらゆる資材の節約を図り、節約の観念を養い、利用できる資材を効果的に使用し、外貨を生む輸出部門に投資を集中し、輸入代替を進め、インフラを強化する。持続可能なエネルギーの消費を確立する。

同時に、革命が国民のために達成した社会サービスを維持し、質を漸次高める措置を取る。そのためにキューバ・ペソの価値を高めるために、国民の間で広く需要がある一連の製品の価格を値下げするなどいろいろな措置を取っている。

一方、国内の財政の均衡が図られた。小売市場における供給水準を上げ、成果主義に基づく賃金制度の導入を進め、インフレ圧力が回避された。

6月15日から党员、青年共産同盟、大衆組織、社会の各層の代表が、「キューバの社会主義発展の経済・社会モデルの刷新」及び「2030年までの経済・社会発展の全国計画」について民主的に討議を開始した。7月4日までに23万8,000人が参加して、7,200の会議を開催し、実に多くの提案が寄せられた。



経済モデルの刷新を続けるが、その速度は、社会主義の建設においてわれわれが主体的に、キューバ国民のコンセンサスと団結を強化しながら行うことを再確認する。

変革の速度は、引き続きわれわれがうまくやることができるかどうかにかかっている。そのためには、事前の準備、基準となる文書の作成、それを適用する水準においても内容をよく把握していること、導入の追跡と管理、制度的な監視、間違った時の適時の修正が必要である。

外交政策は、第7回党大会でも詳細に述べたし、コロンビアの和平協定の調印式の中で述べたので繰り返さないが、キューバとベネズエラ兄弟人民、ボリーバル、チャベス、マドゥーロ大統領、その軍民政府との連帯と約束はいささかも弱まることはない。引き続きベネズエラとの協力を追求していく。真の友人は、困難なときに分かるもので、キューバ国民は、重大な困難に直面しているときでも、ベネズエラ国民への支援を決して忘れることはない。

(新藤通弘要約)